



今季2度目の選手権ポイント獲得  
得意な鈴鹿最終戦へ手応え

シリーズ名：2016全日本スーパーフォーミュラ選手権 シリーズ第6戦  
大会名：全日本スーパーフォーミュラ シリーズ第6戦 スポーツランドSUGO（スポーツランドSUGO・宮城県）  
距離：3.704km×68周（251.872km）

予選：9月24日（土）曇り・観衆6,700人（主催者発表）  
決勝：9月25日（日）晴れ・観衆14,000人（主催者発表）

9月24日（土）～25日（日）、全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第6戦が、宮城県スポーツランドSUGOで開催された。DRAGO CORSEは、小暮卓史とSF14/HONDA HR-414Eの組み合わせでこのレースに参戦した。

DRAGO CORSEは2014年のこのレースでスーパーフォーミュラデビューを果たして以来2年、15大会を戦い終えて新たな“3年目”を迎えた。

- 9月24日（土）
- フリー走行：1分06秒303 9番手

24日土曜日9時から1時間にわたりフリー走行が行われた。スポーツランドSUGOは晴れてはいたが、前夜までの雨がコースを濡らしてウェットコンディション。走行が始まると徐々に乾き始めドライタイヤでの走行が可能になるという難しい状況だった。

小暮はセッティングに微調整を加えながら27周を走行し、セッション終了直前にトップから0秒635後れの1分06秒303を記録、9番手でセッションを終えた。

- 公式予選：13位  
(Q1：3位 1分05秒963 Q2：1分06秒196 Q3：DNS)

3回のセッションにわたるノックアウト方式の公式予選は薄い雲が空に広がった午後1時から始まった。20分にわたるQ1セッションが始まった段階で、コースコンディションはドライである。

小暮は走り出すと1分06秒746を記録してその時点で8番手につけ、ピットへ帰還した。そこでセッティングに微調整を加え、タイムアタックのタイミングを待つ。セッション残り7分を切って続々とコースインが始まる中、小暮はコースインを遅らせてピットアウトした。

小暮はセッション終了を示すチェッカーフラッグが提示される直前にコントロールラインを走り抜けタイムアタックに入った。この時点で順位は18番手。他車が続々とチェッカーフラッグを受ける中、小暮はタイムアタックを行い、最終ラップに1分5秒963を記録、3番手に躍進して走行を終えた。

午後1時30分、7分間のQ2セッションが始まった。ところがインターバルを挟んで走り出したコースのコンディションは変化しており、小暮は強いアンダーステアを感じながらタイムアタックを行わなければならなくなった。小暮はコースをオーバーランしつつもタイヤを温め直し、セッション終了直前にタイムアタックを行ったがタイムは1分06秒196に留まりQ3進出はならなかった。この結果スターティンググリッドは13番手に決定した。

●9月25日（日）

■フリー走行：1分08秒171 9番手

日曜日朝、スポーツランドSUGOは晴れてはいたもののコースは前夜の雨でウェットコンディションだった。しかし全日本F3選手権の決勝レースが行われたためフリー走行が行われる頃にはコースはほぼドライコンディションとなった。

セッションは午前9時30分から始まった。小暮はピットインを繰り返してセッティングを微調整しながら快調にタイムを縮め8周目に1分08秒171を記録して5番手となる。その後も周回を重ねるが、午前9時55分、コース上に停止車両が発生したためセッションは赤旗で打ち切られた。小暮はタイム更新ができないまま9番手でセッションを終えた。

■決勝レース：7位（1時間22分50秒470 68周 ベストラップ 1分8秒463）

午後2時、決勝レースに先駆けて8分間のウォームアップ走行が行われた。小暮は途中1回ピットインして最終的なセッティング調整を行い、4周を走って1分09秒073を記録、5番手で走行を終えた。

午後3時、決勝レースのスタートが切られた。13番手からスタートした小暮は混乱の中で順位を11番手へ上げてレースを始めた。前走車との間隔はコンマ5秒、空力の影響が出て接近するのは難しい距離である。

5周目に上位車両の1台がコース上で停止、7周目には早めのピットイン戦略を選ぶ車両が1台出たため小暮の順位は9番手へと繰り上がった。前走車との間隔は変わらず、緊迫したレースは続く。

10周を過ぎてピットストップに入る選手が増えた。今回のレースはタイヤ交換をしなくてもレース距離を走りきれる目途があったのでほとんどの選手はピットで給油のみを行ってコースへ復帰する作戦を採った。ただしコース前半にピット作業を済ませてしまうか、後半まで引っぱって軽い状態で走り続けるか、戦略は分かれた。小暮は7番手まで繰り上がった12周目、早めのピットイン戦略を選んでピットイン、給油のみを済ませてコースへ復帰した。

コースへ復帰した時点で小暮の見かけ上の順位は14番手。18周目に上位車の1台がコースオフしたためセーフティカーがコースイン、隊列を作ったの走行となった。セーフティカーランの間に、ここまでピットストップをしていなかった選手たちが続々とピット作業に入り、小暮の順位は8番手まで繰り上がった。セーフティカーランは22周いっぱい続き、23周目からレースが再開された。

小暮は前走車とコンマ5ほどの間隔でレースを再開、25周を終わる最終コーナーで背後につくと26周目の第1コーナーへ向けてアウトから並びかかり、オーバーテイクに成功して7番手へ進出した。前走車との間隔は1秒を切っており、小暮のペースは良くコンマ5程度まで縮まるものの、オーバーテイクには至らない。

結局その後小暮は、同等のスピードを持つ前車に近づくとダウンフォースが抜けてアンダーステアが出るというSF14の特性に陥ってしまい、それ以上のオーバーテイクはできないまま68周を走りきりトップから23秒990後れの7位でレースを終えた。この結果、開幕から6戦（7レース）連続の完走を遂げ、開幕戦以来の選手権ポイントを2点獲得、通算7点でランキング13番手につけた。またDRAGO CORSEはランキング9番手につけた。

シリーズ第7戦（2016年シリーズ最終戦）は、10月29日（土）、30日（日）に三重県鈴鹿サーキットで開催される。

■小暮卓史コメント

予選で前に並べていたら、多分全然違うレースになっていたと思います。予選は、自分の失敗もあったんですが、それ以前にコンディションにクルマを合わせきれませんでした。

Q1は3番手だったしQ2でミスしないで5番手以内と思っていたのに、急に強いアンダーステアが出て、まったく曲がらなくて厳しい状態になってしまったんです。でも決勝では7番手まで上がれて良かった。リスタートで（ジェームズ・ロシター選手を）抜いたときは、最終コーナーからタイミングを合わせて抜けました。きわどく見えたかもしれませんが当たっていません。クルマには手応えはあったので、ちょっと残念という気持ちでいっぱいです。最終戦の鈴鹿では、開幕戦でもいいレースができていたのでいいレースができるんじゃないかと楽しみにしています。

#### ■道上龍コメント

Q1で3番手だったのにQ2で13番手に落ちてしまったのが正直ショックでした。予選が課題ですね。Q2では路面変化によってクルマのバランスが急変してしまったんです。ぼくらにはまだQ1からQ2へいくときのコンディションの振れ幅がわからないので冒険はできません。やはりもっと考えて、Q1、Q2の間に路面変化があってもそのまま行けるくらいの幅を持たせたクルマにしておいてドライバーにうまく乗ってもらい、Q3に向けて路面に合わせたアジャストをする、というやり方をすればよかったんだろうなと思います。今回はそれなりにクルマが仕上がっていて、予選で前に行けていればもっといいレースができていたのにと残念です。ただ、アクシデントがあったりセーフティーカーが入ったりというSUGOらしいレース展開には助けられたかなと思います。この数戦、レースらしいレースをできていなかったことを考えると、100%満足とは言えないですけども、ペースは悪くなくて自分たちのレースは出来たと思っています。開幕戦以来のポイントで2ポイント取れましたし、最終戦の鈴鹿は開幕でも良かっただけに、開幕戦のような感じで予選から前を走れるように頑張ります。

